

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520525

研究課題名(和文)ニューカレドニアの危機言語の文法・語彙記述と言語類型論的研究

研究課題名(英文)A Study of endangered languages in New Caledonia - descriptive grammar, lexicons, and typology

研究代表者

大角 翠 (OSUMI, Midori)

東京女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号：10141293

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではニューカレドニアの消滅の危機に瀕している先住民語を調査し、文法、語彙の記述と言語類型論的分析を行った。

研究期間を通じて毎年ワウエ先住民部落で調査を行いこれまで未記述であったネク語の発話や会話などを録音した。それらをテキスト化し、音韻、形態、統語構造の分析を行った。また、プティクリ先住民部落のティンリン語の辞書項目のチェックと補充もを行い、辞書の編纂をほぼ完了した。ティンリン語文法(Osumi 1995)のフランス語訳も研究協力者により完成した。

この研究で得られた言語資料を用いて日本やオーストラリアの研究者と共同で言語類型的研究を行い、節連接構造、情報構造などを分析した。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we have investigated indigenous languages of New Caledonia that are greatly endangered, with the purpose of describing grammars and compiling dictionaries.

Osumi carried out fieldwork in Ouaoe every year during this project, collecting linguistic data and recording conversations and texts in Neku, which had no previous written records. She also revised her Tinrin dictionary (unpublished) with the help of a Tinrin speaker. Tinrin Grammar (Osumi 1995) was translated by an overseas collaborator, which is due to appear in 2015.

The Neku and Tinrin linguistic data collected and analysed have provided a significant resource to the studies in linguistic typology. Osumi collaborated with Australian and Japanese scholars in investigating typological features such as clause linkage strategies and information structures.

研究分野：フィールド言語学、言語類型論研究、オセアニア言語研究

キーワード：文法・語彙記述、ネク語、ティンリン語、オーストロネシア言語、言語類型論、国際研究者交流、ニューカレドニア、消滅の危機に瀕した言語

1. 研究開始当初の背景

(1) ニューカレドニアでは公用語としてフランス語が用いられる一方、先住民族によって28の先住民語が話されている。その大多数は話者が非常に少なく若い世代への継承も十分には行われていないため、消滅の危機に瀕している。近年になりチバウ・カナク文化センターが中心となり多くの先住民語について調査が行われ、主に語彙集の作成が進んでいる。しかし言語間の差異が大きいため共通の書記法を確立することは難しく、また、調査者も言語学の訓練をあまり受けていない場合が多く正確さに欠けるなどの問題がある。

研究代表者は1995年に *Tinrin Grammar* (ティンリン語文法) を出版したが、ティンリン語に関する研究はこの本以外にはほとんど存在しない。また、ティンリン語の近隣地域で話されるネク語については出版されたものは存在せず、ほとんど未調査の状態であった。

(2) 研究代表者は2001年頃からほぼ毎年ニューカレドニアで調査を行っている。それにより、本研究開始時には住民からの協力支援の体制、友好関係がすでに確立されていた。ワウエ先住民居留区ではネク語話者の家族の家に滞在させてもらい、また、ティンリン語はヌメア在住の話者の協力を得られる状態であった。

(3) 研究代表者は国内およびオーストラリアやフランス、ニューカレドニアのオーストロネシア言語研究者やパプア語研究者と長年にわたり協力関係を築いている。また、言語類型論研究でも国立国語研究所や東京外国語大学 A A 研による共同研究に参加し、またニュー・サウスウェールズ大学、オーストラリア国立大学でセミナーを行うなどして研究協力、意見交換を行ってきた。

2. 研究の目的

(1) ニューカレドニアの先住民語は大半が十分な文法記述、辞書などの記録を持たないまま衰退の一途を辿っている。フランス語が共通語であり教育の言語としても使われているため、先住民語はごく狭い空間である先住民居留区の中でのみ使われることが多く、また就学前の幼児が高年齢の人々に限られる傾向がある。ネク語はこれまで全く研究されたことがなく話者も200人程度しかいないと推定されるため、話者が健在の間に緊急に言語調査を行い、文法、辞書などの記録を残す必要がある。またティンリン語についても再調査し、英語、仏語の意味を付した辞書を作成したい。

(2) 少数民族語の調査は多彩な言語現象の発

見や認知体系の解明につながり、言語学一般や言語類型論研究に大きな意義を持つ。また、言語の進化、先史人類の移動、異言語間の接触などの関連分野への重要な示唆に富むものである。言語はその話者にとっては、民族の生活、伝統、文化、思想の集大成であり、話者の独特な世界観を映し出しているかけがえのないものである。このような貴重な人類の遺産を守る上からも緊急に調査、研究を行う必要がある。

3. 研究の方法

(1) ニューカレドニア先住民語及びオセアニアの言語情報の収集

研究代表者は2011年～2014年の毎年、現地調査(合計約8週間)を行い、ニューカレドニアの先住民居留区(ワウエ)とヌメアでネク語の聞き取り調査をした。

ナレーション、会話、口承物語などを録音し、また先住民居留区の伝統行事や生活(焼畑や家づくりなど)を写真やビデオに撮影した。

ワウエでは主に首長のルイ・ウインベ及びギュスターヴ・カウパ、ヌメアではジゼル・ウインベの協力を得た。また、ティンリン語についてはアニエス・オレロの協力を得た。録音はエディロールを使用した。

チバウ・カナク文化センター、ニューカレドニア大学、シドニー大学、オーストラリア国立大学でオセアニア、特にメラネシア言語の資料、文献の調査を行った。また、フランスやオーストラリアの研究者と協力してセミナーなどを通じ意見交換、情報収集を行った。

(2) データの文字化、データベース化と記述

収集した音声資料は極力現地で文字(国際音声表記)化し、帰国後コンピューターに入力、データベース化した。また映像資料やノートも整理し辞書項目やテキストを作る作業を行った。

文法記述、辞書編纂

ネク語のテキストは音声、形態素、統語構造から分析を行い、包括的な文法記述を行った。同時に仏語、英語との3言語辞書の項目を執筆した。ティンリン語の辞書については語彙の補充、追加を行った。

フランス語翻訳

ティンリン語及びネク語の辞書のフランス語訳は主に海外研究協力者が行った。さらに、*Tinrin Grammar* (ティンリン語文法) のフランス語翻訳を海外研究協力者が行った。

(3) 言語類型論研究

これまでに協力関係を築いていた国内外の研究者とワークショップ、セミナーなどを通じ共同研究、意見交換を行った。

4. 研究成果

(1) データベースの構築

現地調査で得られたネク語のナレーションや会話をもとに、語彙やテキストのデータベースを構築した。データベースは文法記述や辞書作成に使用されるだけでなく、ロンドン大学やハワイ大学の危機言語ドキュメンテーションプログラムが中心に行っているアーカイブに保存することができる。これらの資料はさらに言語類型論研究、比較言語学、文化人類学研究などに寄与するものである。

オセアニア地域、ニューカレドニアの文献、特に言語関係の資料をニューカレドニアやオーストラリアで収集した。現地で社会言語調査もを行い、多くの現地語が現在、社会の変容の中で急速に衰退し、次世代に正しく継承されていない状況が明らかになった。

(2) 地域および国際的なネットワークの構築や話者コミュニティへの貢献

本研究・調査を通じて、ニューカレドニアのワウエ部落やヌメアの人々と交流し信頼関係を得ることができた。危機言語が若い世代に継承されなくなってきている現状を止めることは容易ではないが、少なくとも現地語話者が今の言語の危機的状況を理解し、孫の世代に積極的に現地語で話しかける様子が見られた。言語使用と言語意識、アイデンティティーの問題については、学会や著書でも発表した。

ネク語の民話の採話を行い、ジゼル・ウインベによるネク語とフランス語による朗読のCDを付して出版し、チバウ・カナク文化センター及びワウエの人々に進呈した。絵本の出版は世代間のコミュニケーションを促進し、子供のネク語への関心を強める効果ももたらした。またこの絵本を元にオンライン版の絵本を作成し、ネク語、フランス語を選択して聞けるようにした。

ニューカレドニア、オセアニア、オーストロネシア語研究に関わる研究者や研究機関(ニューカレドニア大学、オーストラリア国立大学、シドニー大学など)との研究協力関係を築いた。チバウ・カナク文化センターからは絵本の出版にあたり助成金を受けることができた。

(3) 辞書編纂、文法記述、言語類型論研究

現地調査で収集した語彙とテキストのデ

ータベースに基づき、ティンリン語、ネク語・英語の辞書の編纂をほぼ完成し、フランス語訳を含め例文等の補充と修正の最終段階の作業を行っている。

Tinrin Grammar (ティンリン語文法) のフランス語訳を海外研究協力者の協力で完成した。2015年に出版予定である。ネク語の文法記述に関しては現地調査のデータ整理、項目別の分析を完成し、*Neku Grammar* (ネク語文法) の執筆に取り組んでいる。ティンリン語、ネク語の文法現象の分析と類型論的考察は著書、論文等で発表した。ネク語は特にこれまで全く研究されてこなかった言語であるので言語資料としても大変貴重であると考え。類型論研究は国内の研究者との共同プロジェクトなどを通じて理論的にも貢献した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

大角翠、ティンリン語と日本語の所有表現、「作る、する、ある」から所有へ、『日本語学』、査読無(依頼原稿)、vol.34-2、2015、pp. 66-77

大角翠、書評・紹介、ニコラス・エヴァンス著(大西正幸、長田俊樹、森若葉訳)『危機言語：言語の消滅でわれわれは何を失うのか』(京都大学学術出版会)、『言語研究』、査読有、144号、2013、pp. 119-127

Osumi, Midori, The semantic range of the Tinrin verb *fwi*, with reference to some related morphemes in Neku, *Language and Linguistics in Oceania*, 査読有, vol.4, 2012, pp. 1-25
http://www.izumi-syuppan.co.jp/web_LLO/pdf/12Osumi.pdf

[学会発表](計2件)

Osumi, Midori, Information Structure in Tinrin and Neku: topicalisation, impersonal constructions, passive, *International Workshop on Cross-linguistic Perspective on the Information Structure of the Austronesian Languages*, Tokyo University of Foreign Studies, 13 December, 2013

Osumi, Midori, Commentary, the Application of Ryukyuan Linguistics, March, *The 4th International Symposium on the Ryukyuan Heritage Languages*, National Institute of Japanese Language and Linguistics, 2-3 March, 2012

〔図書〕(計6件)

Thierry Boucquey, *La Grammaire du Tiri (Tinrin)*, traduction de *Tinrin Grammar* par Midori Osumi, Nouméa: l'Académie des Langues Kanak, Collection Chemins des Cultures, in press, 412pp .

Osumi, Midori, Information Structure in Tinrin and Neku: topicalisation, impersonal constructions, passive, *Proceedings of International Workshop on Information Structure of Austronesian Languages*, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2014, pp. 91-103
<http://hdl.handle.net/10108/75993>

大角翠、言語意識と言語使用の変革、『琉球諸語の保持を目指して—消滅危機言語をめぐる議論と取り組み』、下地理則&パトリック・ハインリッヒ編、ココ出版、2014、pp. 244-266

Osumi, Midori, Five levels in Neku (New Caledonia), *Five Levels in Clause Linkage*, ed. Tasaku Tsunoda, Matsueda Publishers, 2013, pp. 215-257

Osumi, Midori, *Pourquoi les rats ont-ils des queues?* on-line picture book (Illustration: Boston Abe) Fukuinkan Shoten Publishers, Inc., 2013, 19pp.
<http://www.lab.twcu.ac.jp/midori>

Osumi, Midori, *Pourquoi les rats ont-ils des queues?* (with CD) (Illustration: Boston Abe), Tokyo: Fukuinkan Shoten Publishers, Inc., 2011, 32pp.

〔その他〕

ニューカレドニアの少数言語現地調査(ヌメア、ワウエ)2011年8月、2012年8月、2013年2月、2014年8、9月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大角翠 (OSUMI, Midori)
東京女子大学・現代教養学部・教授
研究者番号: 10141293

(2) 研究協力者

BOUCQUEY, Thierry
Scripps College・French Department・Professor

(3) 研究協力者

辻 笑子 (TSUJI, Emiko)
神田外語大学・英米語学科・非常勤講師